

# たかさご史話 35

## 国鉄高砂線

旧高砂市街地を通る鉄道は、いまでは山陽電鉄だけになりましたが、ほかに、国鉄高砂線も走っていました。国鉄が民営化されてJRになるよりも早く、昭和五十九（一九八四）年十一月三十日限りで廃止になりました。いまから十八年前のことです。

加古川駅を出たあと、野口駅・鶴林寺駅・尾上駅をへて、山電と並行して加古川を渡り、山電高砂駅の南側に高砂北口駅がおかれていました。いま駐輪場になっているあたりです。さらに十輪寺のそばに高砂駅があり、その先には、高砂港駅までの貨物線がありました。

もともとこの路線は、明治四十三（一九一〇）年に軽便鉄道法にもとづいて設立申請が出され、翌年認可された播州鉄道株式会社によって敷設されたものです。

この会社は、設立に先がけて、『播州鉄道とはどんな鉄道か』と題するパンフレットを

発行しています。それを読むと、この会社の目的は、高砂と西脇・三木・北条などを鉄道で結び、加古川流域の播州米などの農産物や三木金物などの特産品を、高砂港まで搬送する点におかれていたことがわかります。江戸時代の加古川舟運に代わる輸送手段の形成をねらっていたわけです。

このうち、加古川と高砂浦（高砂港）を結ぶ高砂線は、大正三（一九一四）年九月に開通しています。しかし、播州鉄道株式会社が敷設し、のち国鉄に引き継がれた路線のうち、いまでは高砂線のほかに鍛冶屋線も廃止になり、三木線と北条線も第三セクターとして存続している、JRが運行しているのは加古川線だけになりました。東播におけるこうした鉄道の変遷からも、時代の移り変わりが感じられます。

（高砂市史編さん専門委員

松下 孝昭）